トイレでお勉強

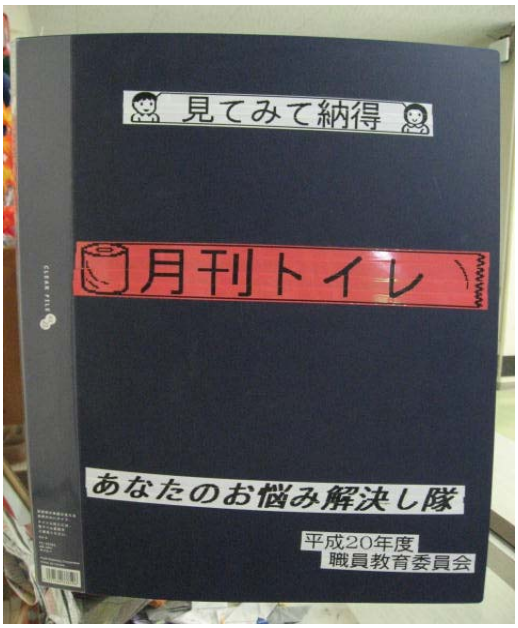
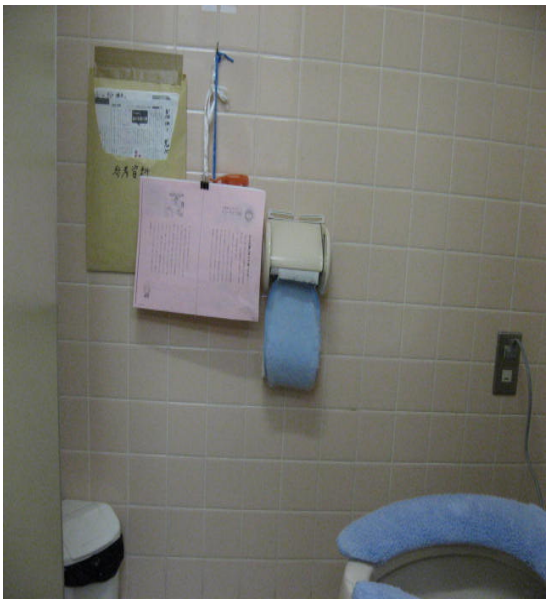
高浜市
特別養護老人ホーム高浜安立荘
業務課長
小西由香里

高浜安立荘は、平成5年4月に開所し今年で21年目の施設です。看護職員として入職し平成 19 年度から業務課長として職員の教育にも携わっています。当施設の特色としては、ターミナルケア、個人浴、回想法、グループケアなどがありますが、利用者の尊厳を守るために自立支援介護を強化しおむつはずしにも取り組み、平成23年度には愛知県第1号のおむつゼロ施設と認定されました。また、我が法人は創立 101 周年目となり、法人全体として人材育成にも力を注いでいます。新入職員研修を始めスキルアップのための施設内研修は以前から行なってまいりましたが、入所型施設においては全員が一度に参加することは困難であり、勤務中での開催も難しい現状がありました。そこで平成２０年度に施設内に「職員教育委員会」を設置し、人材育成への検討を始めました。

ある店舗でトイレに入ったとき、「ご利用いただきありがとうございます。トイレでしか皆様とゆっくりお話ができませんので、感謝の気持ちをここでお伝えいたします」という貼紙が目に留まりました。その後には店主の想いなどが書き連ねられてありました。顔も知らない店主の考えを知ることができた瞬間でした。トイレは個室のため、短時間ではありますが勤務中であってもリラックスできる空間だと改めて感じました。リラックスしているときは情報も入りやすいと思いますし、トイレぐらいはゆっくりと使用して欲しいという気持ちから、トイレ内に掲示する事で職員への知識伝達をしていきたいと思いました。はじめの頃は、介護福祉士や介護支援専門員の受験勉強のために、覚えたほうがよいと思われる内容を職員トイレに貼りました。そして次には委員会で話し合った内容「認知症」をテーマとし、各委員が役割分担をして皆に伝えたいこと、知っておくべきことを色画用紙 1 枚にまとめて毎月掲示することとなりました。まとめる職員は担当する内容についてまずは自分が学習し、どうしたら重要なことを伝えられるかを考え、画用紙 1 枚にミニ教科書を作成するのです。職員によっては委員以外の職員にアンケートをとったり、相談しながら作成してそれぞれに工夫を凝らしたものが出来上がりました。

掲示で注意するポイントとして、①掲示物は短時間で読めるもの　②掲示する期間は 2 週間としその旨を記載すること　③掲示した職員が責任をもって 2 週間後にはがすこととしました。2週間にこだわった理由は、毎月掲示物を変えていくため貼り続けていると壁と一体化し興味を惹かなくなると思い、何も掲示していない期間を設けるためです。また、掲示期間が記載してあると日にちを気にしてちゃんと読んでもらえるのではないかと思ったからです。職員の反応はよかったです。読んだ職員が作成した委員会の職員に感想を伝えてくれたり、「トイレにもこういう対応が良いって書いてあったよね」などの声も聞かれ、見てくれていることがよくわかりました。そして掲示が終了した物の保管についても委員会で検討し、A３サイズのクリアファイルに綴っていくこととしました。それは施設内の誰にでも見てもらえる場所に設置することとし、ファイル名も皆で考えて『月刊トイレ』と命名しました。

その後も継続していきましたが委員会のメンバーが作成するというよりも、他の委員会から「入浴についての考え方を皆に伝えたいのでトイレに貼らせてもらっていいですか？」

などの要望が挙がり様々な使い方をしています。またここ数年は介護専門誌や情報誌などの中で「これは皆に伝えたい」というものをコピーして掲示しています。画用紙のように大きくないため掲示の横の壁に「参考資料」と書いた袋を貼り付け、掲示期間が終了したものはその袋に入れていっています。欲しい方はそこから持ち帰ってよいということにしてあります。職員トイレはお客様も使用されてり、パーキンソン病についての記事を掲示した時などは、面会のご家族から「トイレに貼ってあるのはもらって良いですか」と聞かれコピーをして差し上げたこともあります。「いつも楽しみにトイレに入っています」というお言葉もいただきました。また、施設が取り組むおむつはずしに関する情報なども貼り出すことで、施設の方針がよくわかっていいという声もありました。何も掲示していない時期もありますのでそのような時は「今日は何も無かった」と残念な表情をされる方もみえました。

掲示物は、誰かが気にしていないと貼りっぱなしになることが多く管理が大変です。その為にも掲示する期間を設けてそれを記載することは大切なことだと痛感しています。介護現場はご利用者を中心に動いており、思うようにトイレにも行けないというのが現状です。だからこそ、せめてトイレぐらいはゆっくりと使用してもらいたいと思います。記事のコピーは文面が長くなることがあり、初めに決めた「短時間で読めるもの」ではなくなることもありますが、本を読まない人が増えている今は活字を読む機会も提供していくことが必要だと思い、今後も継続していきたいと思います。